

昭和54年度 和歌山県名匠

【ひわだ ぶき檜皮茸・こけら ぶき柿茸】

たに谷 がみ上 い伊 さぶ三 ろう郎

【現住所】橋本市

【生年月日】明治30年1月1日

職 歴

大正2年ようさん養蚕学校を卒業後、初代善之助（祖父）からひわだ檜皮茸、ぶき こけらぶき柿茸の技術を習得。

以来この道65年、実業に専念している。

業績の概要

大正6年、兵役を終えてのち、重要文化財青岸渡寺本堂の柿茸に従事して以来、現在まで170余棟に及ぶ国宝、重要文化財等の屋根修理にあたっている。

京都御所しん でん紫宸殿、桂離宮新書院、とう ぐ ども銀閣寺東求堂、薬師寺金堂をはじめ本県では、根来大傳院大塔、東照宮本殿・拝殿、とう っ ひ め丹生都比売神社楼門・本殿の他、最近では広八幡神社に秀れた手腕を発揮している。

また、後継者の育成にも熱心で、昭和30年に発足した全国寺社屋根工事業組合の役員として技術向上に努力し、昭和49年度から同組合が補助事業として行っている後継者養成の教務主任として活躍を続けている。

昭和35年文化財保護功勞表彰、43年勲六等瑞宝章を受けているほか、53年には文化財保護法による選定保存技術保持者として認定されている。

現在、「檜皮茸の技術」（仮題）を執筆中である。